

## 船舶事故調査報告書

平成21年7月16日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員長 後藤昇弘  
 委員 楠木行雄  
 委員 横山鐵男（部会長）  
 委員 山本哲也  
 委員 根本美奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成20年12月17日 13時40分～14時40分、甲板員が落水したものと考えられる。）
発生場所	不明（阪神港内において、甲板員が発見された。）
事故調査の経過	平成20年12月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	押船 第三 <sup>めいゆう</sup> 明祐、19トン 260-42596兵庫、大協海運株式会社所有 14.00m×5.40m×1.95m、鋼 ディーゼル機関1基、603kW（連続最大）、平成14年4月
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和50年7月29日 免許証交付日 平成17年7月14日 （平成22年9月16日まで有効） 甲板員 男性 43歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和62年7月2日 免状交付年月日 平成19年8月27日 （平成24年8月26日まで有効） （一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士免許取得）
死傷者等	死亡 1人（甲板員）
損傷	なし
事故の経過	押船は、平成20年12月17日13時40分ごろ、空倉のバージを押航し、神戸空港沖合をポートアイランド沖合の浚渫海域に向けて出航した。14時40分ごろ、船長は、係留索を準備しようとしたところ、単独でバージに乗り組んでいた甲板員が行方不明となっていることに気付いた。約3か月後、行方不明海域から西方2海里の海底において、甲板員の遺体が救命胴衣を着用した姿で、漁船の底引き網に引き揚げられた。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1 海象：平穏（波高 0.2m）
その他の事項	乗組員は船長及び甲板員の2人であった。出航時、船長は押船の上部操

	<p>舵室から、バージの甲板上で甲板員のヘルメットが動いているのを確認したが、その後、目的地に至るまで甲板員に気付かなかった。押船の船首部にはバージとの結合時の緩衝のためタイヤフェンダーが5～6個取り付けられていた。バージから押船に移動する際に使用する本船船首部の梯子を利用する甲板員の姿を船長が航行中に見ることはなかった。甲板員が着用していた救命胴衣は、膨脹式であったが、救命胴衣の一部が破孔損傷しており、発見時、ガスが完全に抜けていた。甲板員は、数日前に乗船したばかりであった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 なし なし 死因は落水による溺死。 落水及び救命胴衣が損傷した原因は、明らかにすることができなかった。</p>
原因	<p>本事故は、阪神港神戸区港内を航行中、バージに乗船していた甲板員が落水したため、発生したものと考えられる。</p>	